スサノヲ神話

このシアターは、古事記の代表的な物語のひとつである、八岐大蛇（ヤマタノオロチ）退治で有名な、スサノヲミコトの生涯のエピソードを紹介します。

この物語は、イザナキ（Izanagiとも表記されます）とイザナミの神々が世界を創造するところから始まります。イザナキとイザナミは一緒に多くの新しい神々を生み出しますが、イザナミは火の神を産んだ後に亡くなります。イザナキは彼女を冥界から救い出そうとしますが、イザナミはすでに黄泉の国の食べ物を食べてしまったため、帰ることができませんでした。イザナキは悪魔や穢れた霊に追われますが、巨大な岩で冥界の入り口を封鎖し、脱出します。その後、イザナキは川で身を洗い、その過程で太陽神のアマテラスオオミカミ、月神のツクヨミ、そしてスサノヲの3人の神が生まれました。

当初、イザナキはスサノヲに海の支配権を与えましたが、任務を怠ったため、後に天界から追放されました。スサノヲは旅立つ前に、アマテラスを訪ねて高天原に行きます。アマテラスはスサノヲを疑い、戦いの準備をしています。スサノヲの真意を確かめるため、二人の神は占いの儀式を行います。曖昧な結果にもかかわらず、スサノヲは「自分の動機が純粋であることを証明している」と主張し、姉の領域に入っていきます。その後、スサノヲは破壊的な大暴れを続け、その結果、アマテラスの従者の一人を死なせてしまいます。この時、アマテラスは洞窟に引きこもり、世界は闇に包まれました。やがてアマテラスは洞窟から誘い出され、スサノヲは永久に追放されてしまいます。

出雲に着いたスサノヲは、老夫婦が美しい娘のクシナダヒメと泣いているのを目にします。どうしたのかと尋ねると、ヤマタノオロチと呼ばれる八頭八尾の蛇が他の娘をすべて食べてしまい、間もなくクシナダヒメを迎えに来るといいます。彼は、娘と結婚する許可と引き換えに、この獣を退治することに同意します。スサノヲはヤマタノオロチを罠に誘い込み、倒します。その怪物を殺した後、彼は草薙剣という立派な剣をその尾の中から発見します。彼は、その剣をアマテラスに捧げ、やがてアマテラスの子孫である日本の天皇の権威を象徴する三種の神器のひとつとなります。